

を用ゐたりしものなることを證するものなり」と云へり。抑もソグド字と回鶻字との關係は、近時獨佛の諸學者が、普通に回鶻文字と稱せらるゝものを呼ぶに「若きソグド文字」、「後のソグド文字」(die jüngere sogdische Schrift; lettre sogdienne tardive)の稱を以てするに依りても明らかなるが如く、回鶻字はソグド字の後期の字體にして、新らしき時代のソグド文字との間には、或る特種の字母を除きては、其の區別を施し難きものなりとす(只だ Rodloff 氏はソグド字を以て却りて回鶻字より發達したるものと考ふれども、此の考の不當なることは後に述ぶるが如し)、殊に回鶻碑文に見ゆる此の文字は著しく損はれ、連續して完全なる語を表はせる文字の存するもの多からず、かゝれば碑文の文字を此等兩者中の何れと定むべきかは頗る難事なるが如しと雖、然も既に碑文の言語がソグド語なること動かす可らざる事實にして、且つ回鶻文字かソグド文字より發するものなること亦疑無しとすれば(此の事は後に詳説すべし)、碑文の文字を以て回鶻文字なりと見るは正當の見解と認む可きに非ず、ソグド人殊に其の摩尼教徒が、彼等の有せしソグド文字を以て、其の言語を書き表はしたるものと見ざる可らず、或は此の碑文中に元來ソグド字には存せざる **𐰃**(1)字の存するを見て、之を回鶻字と斷ぜんとするものあるべきも、然も基督教ソグド語・佛教ソグド語等が精密なる **𐰃**音を有せず、従つて **𐰃**(1)字を有せざるに反し、イラン語の **𐰃**派( **d** 派に對して)に屬する摩尼教ソグド語にては、 **𐰃**(r)字に **𐰃**の記號を附して成れる **𐰃**字を用ゐて **𐰃**音を寫したるものなると共に、此の碑文には摩尼教の回鶻に傳へられたる次第を特に精細に記せるものなれば、ソグド語を語れる摩尼教徒が、ソグド文字を用ゐて、ソグド文を記せるものとすれば、 **𐰃**(1)字の存することも決して之がソグド文字たるを否むべき理由とするには足らざるなり、されば要するに回鶻碑文の文字は、此の碑の建設せられたる時代に